

NEWS!

Vol.31-1
No.164
平成24年1月号
編集・発行
松浦機械製作所

明けましておめでとうございます。

昨年は、東日本を襲った大震災、欧州発端の金融不安、更に強烈な円高と国内製造業を取巻く環境は逆風が吹き荒れ、予想以上に厳しい1年と言えました。

そんな中、日本の工作機械業界は、中国を中心とするアジア振興市場と欧米の通貨安による輸出型産業の旺盛な需要に支えられ、リーマンショック以前に近い、年間1兆3千億円前後の受注があり、弊社も苦しいながらも一定の業績を上げることが出来ました。

昨年は、東京フォーラムセンターリニューアルオープンを実施し、金型製作からプラスチック成形完成品までの一貫した工程を実演展示する機械設備を有し、お客様が安心して実際にその効果を検証する環境をご提供することが可能となりました。海外においては、“アジアのマツウラ”の足がかりとなる上海事務所を開設、ハイエンド機需要を取り込むため一歩ずつ着実に地歩を固めるよう取り組んでいます。また商品開発においては、リニアモータマシン **LX-O** をフルモデルチェンジし、更なる超精密加工や超高速加工に 대응するため主力機種「**LX-160**」をベ-



ースに市場特化型の派生モデル3機種を同時に発売し、日欧米の各ショーに出展し高評価を得ることができました。昨秋には、金属光造形複合加工機「**LUMEX Avance-25**」を用いた加工技術の医療機器への普及実現を目的とする医療フォーラムを立ち上げ、多くの賛同者を得て、新たな活動を開始しています。

本年は、9月に米国、シカゴでIMTS2012、また11月には東京でJIMTOF2012と大きな展示会が開催されます。それらに沿って更なる技術開発を進めると同時に、常態化する円高に打ち勝つ地力の強化を図ってまいります。

本年も引き続き、格別のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社 松浦機械製作所

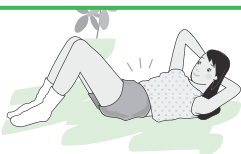
代表取締役社長 松浦 勝俊

謹賀新年



日本のヘソ

福井 No.163



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第163回目は「福井県立図書館」の話です。

福井県立図書館は、平成15年に福井市下馬町に移転され、昨年10月23日に移転以来入館者が500万人を突破しました。図書館の位置する場所は、福井市中心地から車で南へ15分ほどの位置にあります。周辺が水田に囲まれた静かな場所にあり、読書するには最適な環境です。駐車場を含む敷地面積は69,567㎡で東京ドームの1.5倍の広さもあり、休日になると多くの来場者が読書に親しみ、また勉強に勤しんでいます。

社団法人日本図書館協会が発表した「平成22年度都道府県図書館の統計」によると、福井県立図書館（若狭図書館学習センター含む）の入館者数、貸出冊数ともに県人口比で全国1位となりました。平成22年度入館者数は738,823人（人口比0.913）、貸出冊数は852,710冊（人口比1.053冊/人）です。移転した平成15年以来、入館者数（人口比）は8年連続で全国1位、貸出数は平成21年まで7年連続全国2位でした。

福井県内の他の図書館と連携した本の検索システムなども充実しており調査研究する際には重宝します。今ではインターネットで様々な情報を検索できますが、1冊の本との出会いは、絶対に会えない著者との出会いでもあるので、人生を豊かにするものと思います。

ユーザーを訪ねて No.150

工業用樹脂・ゴム・アルミ 株式会社ユー・エム・アイ

今回のユーザーを訪ねては、京都駅から車で南に30分ほどにある株式会社ユー・エム・アイ取材しました。取材には、植村敏彦会長、植村浩典社長、植村豪彦常務にご対応頂きました。昭和46年に植村会長が植村商会として設立。その後規模拡大に伴い本社・工場を数度移転し、平成18年に現在の地に新築移転しています。新工場は、大変モダンな設計でセキュリティ管理また温度・湿度管理が施されている最先端工場です。設立当時の会社名は、植村工業株式会社でしたが、平成8年に株式会社ユー・エム・アイに変更しました。社名のユー・エム・アイ（UMI）は、Ultimate(究極)、Method(方法)、Individuality(個性)の略で、「究極の方法を絶えず追求し、より豊かな個性を表現しよう」という意味を込めています。



▲工場全景

高機能材の認定工場

同社はゴムの加工業で創業しましたが、事業展開する中で工業用樹脂に転換していきました。現在、米国大手化学メーカーと直接取引があり、高機能材料（スーパーエンジニアリングプラスチック/高機能エラストマー）の認定工場となっています。この化学メーカーで開発された新素材の委託加工及び加工部品の販売代理店を行なっています。「材料の供給だけでなく、加工技術も付加することで、この高機能材料の利用分野が広がります。樹脂には切削理論も殆ど無いので試行錯誤で条件を見つけ出しています。またゴムの加工にも特化しています。お客様より高精度のゴム部品を要求され、成形では精度が安定しないので切削で加工します。ゴムの性質上接触式では計測が難しいので画像測定器を使っています」と工場担当の植村常務。

同社では、半導体、電気電子、FA、食品、医療など分野を問わず幅広く事業展開しています。「昨年は、LED（照明）関係が25%、半導体が14%、実装関係10%、電子部品が7%と時流に応じた分野に展開しています。5年前はPDP（プラズマディスプレイ）、液晶TVが主流でした。毎年種まきをしながら新分野を開拓しています」とマーケティングを担当する植村社長。

精密部品加工の他に、自社製品の「フレックスキャリア」を製作しています。この製品は、フレキシブルプリント基板（携帯電話などに組み込まれる複雑形状の基板）への表面実装を行なう際に使用する搬送ボードです。フレックスキャリアを製造するための金型や成形技術など特許8件を有しており、同社を支える柱となっています。

品質は会社の命

同社は、ISO9001（品質）とISO14001（環境）をまとめたIMS（総合マネジメントシステム）を全国で23番目に取得しています。その中で品質方針を「品質は会社の命」とし、出荷される製品の全数検査を行なっています。

超精密加工分野も同社の大きな特徴です。超精密加工機を設置している床は、機械ごとに分離された深さ7mの基礎工事が施されています。これにより他の生産機械の震動に影響されない環境を作りだし超精密加工の条件をワンランク上げています。

超精密加工室と測定室の温度管理はJISのI級22度±0.5度、湿度管理は50%±2%に制御しています。樹脂とゴムは生き物と言われ、環境の影響を受けやすく寸法が安定しません。これらの材料の特性として吸湿性が高いため湿度管理も重要とのこと。計測機器も多数設備され、超精密三次元座標測定器、非接触三次元CNC画像測定器、表面粗さ形状測定器などがあります。樹脂とゴムは、加工も難しいですが計測も更に難しいとのこと。

人材の育成・多能工化へ

同社の生産は、1個から数10個、加工条件が不明な新素材、また複雑形状の部品と様々です。更に短納期を要求されるので、社員個々の能力向上が不可欠です。「毎期ごとに自身の技能習得目標を定めています。もし達成できない場合には、その理由を調べて是正するようにしています。」



▲左から植村豪彦常務、植村敏彦会長、植村浩典社長

の加工で最先端産業に貢献する



▲2階フロアからの工場内

当社では計測がモノづくり以上に重要です。難易度の高いモノは専門の検査員が計測しますが、加工した部品を自身が計測できることは加工技術を上げる為にも重要です。多能工化の中で計測技術も含め自身の技能が把握できる仕組みを作っています」と植村常務。

マツウラとの出会いは汎用フライスから

「最初の工場では樹脂の加工を開始した時に、旋盤とフライス盤を設備しました。その時のフライス盤がマツウラ製でしたので30年以上のお付き合いです。次の工場では加工が複雑になり、マシニングセンタが必要となり、取引先の大手電気メーカーの担当者に相談したところ数社紹介されました。その中にマツウラの名前もあり昭和59年に立形マシニングセンタ**MC-500V2**を設備しました。この機械は今でも現役で稼働しています」と植村会長。その後**MC-510VF**、**MC-1000VF**、**MC-1000VG**と設備され、平成23年7月に5軸制御立形マシニングセンタ**MX-520**が導入されました。「マツウラの**GibbsCAM**もマック版の初期のころから導入しています。現在**GibbsCAM**のライセンスは2.5次元が5セット、5軸が1セットの合計6セット稼働しています。**MX-520**導入前に**GibbsCAM**の5軸でプログラム準備も進めていたので、納入後直ぐにフル稼働でき



▲MX-520

株式会社ユー・エム・アイ 概要

本社工場 〒613-0033
京都府久世郡久御山町林高黒1-6
TEL:0774-44-5151 FAX:0774-44-5172
URL:www.umi-inc.co.jp
E-mail:sales@umi-inc.co.jp

東日本支社 〒400-0053
山梨県甲府市大里町53-1
TEL:055-241-6087 FAX:055-243-3832

西日本支社 〒899-2504
鹿児島県日置市伊集院郡971-1
TEL:099-246-5066 FAX:099-246-5061

松山営業所 〒791-0245
愛媛県松山市南梅本町30-6
TEL:089-990-8233 FAX:089-970-6438

代表者 代表取締役社長 植村 浩典
設立 昭和55年10月1日
従業員 104名
事業内容 樹脂・非鉄金属精密部品加工

ました。3軸の加工機に比べ、5軸の特徴であるワンチャックで多面加工出来るので工程設計が格段に容易になりました」と植村常務。

鹿児島県日置市に新工場建設予定

同社は山梨県に東日本支社、鹿児島県に西日本支社を設置し営業活動を行なっています。「事業拡大、またリスク分散などの観点から新規工場建設を海外にするか、国内にするかを検討していました。海外移転は、立ち上げで苦勞し、コストによる消耗戦を強いられ、また技術流出も心配でした。国内にするか悩んでいた矢先の3月11日の東日本大震災をきっかけに西日本支社のある鹿児島に設置を決断しました。ある調査機関の報告で九州は今後30年間震度6強の地震が起こらない。また被災から早期に復帰した会社はサーバーの分散などの準備が充分行なわれていたので、これに順すればリスクは低減できると考えました。本社工場は【絶対品質の確立・維持】、九州工場は【持続的供給責任】を全うし、高機能製品の提案とスピード対応で、お客様に責任を果たしていきたい。来年4月に新工場をスタートする予定です」と植村社長。

取材をした会議室の奥にあるセキュリティー管理されたドアから工場に入りました。会議室は2階なので工場全体を俯瞰する形です。この位置からは、機械の状況は見えますが実加工の形状までは確認できません。このことにより、同社のセキュリティー対応にお客様も満足されると実感しました。工場では、昭和59年に納入された**MC-500V2**が現役で稼働しておりメーカーとして嬉しく思った取材でした。

金属光造形複合加工医療機器フォーラムの設立

マツウラでは、金属光造形複合加工技術を使って金型製作の他に医療機器のテストを行なってきました。今回、マツウラが協賛で医療機器への普及を目的として『金属光造形複合加工医療機器フォーラム』を設立しました。



▲シンポジウム会場

フォーラム設立趣旨

積層造形法を用いた金属製医療機器の作製方法としてDMLS法やSLM法が研究開発から製品製造に導入されつつあり、金属光造形法は発展段階にあると言えます。この様な中で、金属光造形複合加工方法の特徴を活かすことにより、従来の積層造形の課題を克服出来るだけでなく、未開発・未発見の新たな医療機器としてのニーズに応えられるものと考えます。個々の患者に適合した形状のインプラント作製、個々の要求に合わせた複雑な形状の歯科補綴物(ほてつぶつ:義歯、インプラントなど)作製など、新たな歯科医療技術の展開にも繋がるものです。

フォーラム設立目的

製造者、研究者、ユーザーを問わず産学官のメンバーが集まり、医療機器に対する臨床的ニーズと要求事項を明示するとともに、金属光造形複合加工法における技術的問題を抽出することによって、両者の課題と対策を意見交換し、金属光造形複合加工技術の医療機器への普及を目的としています。

フォーラム発起人

小田 豊 様	東京歯科大学 歯科理工学講座 教授
岡崎 義光 様	独立行政法人産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門
伊藤 充雄 様	株式会社バイオマテリアル研究所 所長
大塚 昌助 様	日本歯研工業株式会社 社長
梶田 治 様	福田金属箔粉工業株式会社 顧問
西川 昌弘 様	株式会社ソフィックス 社長
天谷 浩一	株式会社松浦機械製作所 取締役
協賛	株式会社松浦機械製作所

第1回シンポジウムの開催

金属光造形複合加工医療機器フォーラムの第1回シンポジウムが平成23年10月29日(土)にマツウラの東京フォーラムセンター(大田区南六郷1丁目26-13)で開催されました。

シンポジウム内容

- 講演Ⅰ 「積層造形の歯科応用の現状と課題」
東京歯科大学 歯科理工学講座 教授 小田 豊 様
- 講演Ⅱ 「カスタメイド医療機器の薬事申請動向」
独立行政法人産業技術総合研究所
ヒューマンライフテクノロジー研究部門 岡崎 義光 様
- 講演Ⅲ 「金属粉末の医療機器への応用」
福田金属箔粉工業株式会社 顧問 梶田 治 様
- 講演Ⅳ 「金属光造形複合加工機の実情と可能性」
株式会社松浦機械製作所 取締役技術本部長 天谷 浩一

見学会

東京フォーラムセンターに設置されている金属光造形複合加工機「**LUMEX Avance-25**」、5軸制御立形マシニングセンタ「**MX-520**」、射出成形機など実加工を見学。



▲第1回シンポジウム参加者の方々



金属光造形複合加工医療機器フォーラム設立に当たって

金属光造形複合加工医療機器フォーラム会長
東京歯科大学歯科理工学講座 小田 豊 様

歯科用CAD/CAMは目覚ましい普及と開発改良がおこなわれており、成長発展段階にあるといえます。このような状況下で、マシニングセンタを従来の切削加工から積層造形にシフトする展開は、切削加工のみの現在の問題点をブレークスルーする画期的な方法として期待されています。今回、マツウラの東京フォーラムセンターを拠点として、金属光造形複合加工について、開発者、ユーザーを問わず産・官・学の多くの方々の知恵を集め、その課題と可能性を議論する場が出来ました。このことは、金属光造形複合加工法を応用する際の問題点を解決出来るだけでなく、未開発・未発見の新たな医療機器としてのニーズの掘り起こしと技術的シーズの更なる改良と発展に寄与できるのではと夢を膨らませております。皆様のご支援を宜しくお願いします。

東京国際航空宇宙産業展2011に **MX-520** を出展

平成23年10月26日（水）～28日（金）に東京ビックサイトで東京国際航空宇宙産業展が開催されました。この展示会は、航空宇宙産業の技術専門展示会で東京で開催される唯一のものです。マツウラは、株式会社ブルームLMTのブース内に5軸制御立形マシニングセンタ**MX-520**を展示しました。株式会社ブルームLMTは、工作機械用の計測機器やソフトを販売しており、**MX-520**に同社の製品（レーザ及びタッチ式工具長センサ、主軸負荷モニタリング装置）を取り付け航空機産業向けの自動化対応をアピールしました。

3日間で12,866名の来場者があり、盛況な展示会となりました。今回の展示会で実際に機械を展示したのはマツウラの**MX-520**だけでしたので、様々な職種の方々が関心を持たれました。「接近性、作業性が非常に良い」「5軸の機械でこの価格は魅力的だ」とのお客様からの声がありました。



▲実演中のMX-520

国際プラスチックフェア (IPF JAPAN 2011) に **金属光造形複合加工技術**を展示



▲電動ドライバーの金型と成形品

平成23年10月25日（火）～29日（土）に幕張メッセで国際プラスチックフェアが開催されました。3年に1度の開催で今回7回目の開催です。プラスチック・ゴムに関する原材料、機械、製品、リサイクル機器、受託加工など751社・団体が出品し、5日間で66,642名の来場がありました。海外からの来場者は約4,000名あり、8割近くがアジアからの方々でした。

マツウラは、金属光造形複合加工機**LUMEX**のユーザーである株式会社松井製作所ブース内の株式会社OPMラボトリブスで金属光造形複合加工技術の展示説明を行ないました。**LUMEX**で造られた電動ドライバーの金型（冷却用水管を配置）と実際の成形品を展示し、この技術の従来工法に対する優位性をアピールしました。

金属光造形複合加工機「LUMEX Avance-25」をドイツ・フランクフルトで開催された「EuroMold2011」に海外初出展



今まで金属光造形複合加工機ビジネスは日本国内のみで行なってきましたが、今回海外展示会として初の出展を行いました。EuroMold 展は、ドイツ・フランクフルトで毎年開催され第 18 回目を迎えます。3 日間で 6 万人近くの来場者がある世界最大級の金型専門見本市で、ドイツを初め欧州の金型メーカー、ユーザーを中心に最新の金型技術が展示されます。また製造業のグローバル化により、日本のみならず、中国や韓国、台湾などアジア企業も積極的に参加

しており、世界の金型関係者が集まる見本市として注目されています。今回の展示は、マツウラのドイツにある関連会社 Matsuura Europe GmbH と Matsuura Machinery GmbH の 2 社による共同出展です。マツウラ本社からは松浦社長と技術本部の漆崎マネージャーが来場者の対応を行いました。マツウラブースは、光造形機では有名な EOS 社、3D Systems 社、MTT 社に囲まれていましたので、光造形技術に関する知識のある来場者が多く、展示したハンドツールのコア金型を見て、「これが光造形加工機から出てきたままの仕上がりか！」と驚嘆の声を上げていました。

来場された光造形機のユーザーから、このユニークなハイブリッド機（金属光造形＋高速切削加工）について多数の質問があり関心の高さに手ごたえを感じています。この技術を提供できるのは全世界でマツウラだけです。欧州には光造形技術を既に使用している会社が多数ありますが、今回の展示会を契機に金属光造形複合加工機「LUMEX Avance-25」の欧州販売を開始いたします。



会長 松浦 正則

「金属光造形複合加工医療機器フォーラムに参加して」

平成 23 年 10 月 29 日（土）に第 1 回金属光造形複合加工医療機器フォーラムの第 1 回シンポジウムが開催され、活発な意見交換が行なわれ盛況でした。東京歯科大学教授小田豊先生のお声かけで 52 名の皆様が参加頂きました。歯

科に絞り込んだ形でシンポジウムが進行し、小田先生から材料を中心に歴史的な流れが発表され、人体に影響がでない親和性を追及されておられ感心した次第です。また「LUMEX」が持っている積層技術が先行き大変な可能性があるとして取り上げて戴いたのが、新分野へ進出を試みた弊社にとって大変重要なことでありました。次に岡崎義光先生（独立行政法人ヒューマンテクノロジー産総研究所）から「カスタメイド医療機器の薬事申請動向」についての発表があり、出席者一同大変刺激を受け、これからの医療にお役に立てる喜びをかみ締めた次第です。

弊社からも金属光造形複合加工

方法の実績と可能性について発表。その後、東京フォーラムセンターに設置されている LUMEX Avance-25 と MX-520、そしてインジェクションマシンの金型を造形するシステムを見学。人工骨など様々なソリューションを実際の加工を実物で見て頂きました。「この金属光造形複合加工技術がこれからは人に役に立つとの大きな夢があり、人工骨など患者さんに対してカスタマイズが可能になるのを期待してやみません」と出席者の皆様から感想が述べられ、大変勇気が湧いてきました。それにしても人の役立つ初夢を見られるのは大変幸せです。

森田中学2年生の職場体験



● 左から山下昇馬君、白川涼太君

マツウラから車で5分ほどにある福井市森田中学校の2年生2名の職場体験学習を10月25日（火）、26日（水）の2日間行ないました。受け入れた生徒さんは、山下昇馬（しょうま）君と白川涼太君です。

職場体験では、2日間物流倉庫の入庫作業を体験しました。山下君はバトミントン部の部長、白川君は吹奏楽部でチューバを担当しています。二人とも初日は緊張して硬い表情でしたが、2日目には一緒に働く人々にも慣れ楽しそうに業務を行なっていました。

体験終了後に二人から感想を聞きました。山下君は「倉庫の入庫業務を行ないましたが、間違えてはいけないので緊張しました。回りの人がやさしく、分からない時は助けてくれました。1日中立ち続けていたのがつらかったです」。白川君は「分からないときに質問すると誰もがやさしく教えてくれたので、楽しかったです。大変であったが、どんどん分かってくると楽しくなりました」。また山下君から「将来マツウラに入社するには、どんな勉強をすればよいですか」と嬉しい質問もあり、山下君は機械、白川君は電気をやりたいとのことでした。

後日二人より手書きの手紙が届きました。一部を紹介すると「仕事は大変でしたが、従業員の方がとても優しく教えてくださって、楽しく仕事をすることができました。この体験をこれからの生活に活かしていきたいです。将来なりたい職業が増えました」と書かれていました。マツウラでの職場体験が彼らの人生の1ページに刻まれ、将来モノづくりに頑張ってくれることを期待したいと思いました。



シングルorダブル 衰退の管理



社長 松浦 勝俊

未曾有の大災害、強烈な円高、等々、色々あった2011年も幕を閉じ、2012年が始まりました。ここ数年で日本を取り巻く環境もまたガラッと変わり、環境変化適応能力が益々問われる時代となっております。

さて、昨年秋ごろ目にした言葉で「衰退の管理」というものがあります。英国の新聞フィナンシャルタイムズ（FT）のコラムなんですが、日本でも紹介されていたので目にされた方もおられるのではないのでしょうか。

ざっとポイントを要約すると、英国はアメリカに覇権を奪われた後、国力自体は衰退し低下していったものの、国民の生活水準の維持向上と国家安全の確保とを完全に両立することが出来たという事実があり、これは英国が管理された衰退を上手くやり遂げた結果だという内容です。

別に日本が世界の覇権を握った事実はないので、この話を日本に当てはめてお話するのは非常に乱暴なことですし、記事の中での主体も、台頭してきた中国と現在問題を抱える

アメリカとを対比しながら、アメリカは英国に学ぶべきものがあるというものでしたので、日本はどうすべきかといった話ではありません。しかし、色々な面で示唆に富んだ内容で感じ入る部分が多くありました。

海を挟んだ隣国が経済規模で世界屈指の大国となることが確実視されている現在、日本は今後どういう舵取りをしていくのでしょうか。

マツウラは英国に子会社を持っており、英国の文化を直接感じる事が多々あります。実は英国は、マツウラの国別マシニングセンタ販売シェアが一番高い国でもあります。英国のお客様は小粒ですが、技術的に非常に特色のある会社が多く存在しております。決して大規模にビジネスを展開している訳でもなく、技術に裏打ちされた収益性の高い商売をしっかりと行っておられるお客様がたくさんいらっしゃいます。

一方で強烈な円高の環境に晒されている日本の中小企業は、将来に対する危機感を強く持っております。たとえ国力が比較の上で衰退したとしても、企業はどっこいしっかり生き抜いていかねばなりません。

「衰退の管理」と聞いて、技術がある会社の大人のしなやかさみたいなものをしっかり備えなければいけないと強く思う2012年の新春です。

お知らせ

1 平成24年度 松浦機械製作所暦

1	2	3	4
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30
5	6	7	8
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
9	10	11	12
日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	日 月 火 水 木 金 土 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2 NCスクール日程

開催予定月	日 程	スクール内容
1月度	18日(水)～20日(金)	5軸加工コース
2月度	7日(火)～10日(金)	基礎コース
3月度	7日(水)～9日(金)	高速・高精度加工コース
4月度	10日(火)～13日(金)	マクロコース
5月度	9日(水)～11日(金)	5軸加工コース
6月度	5日(火)～8日(金)	基礎コース
7月度	11日(水)～13日(金)	高速・高精度加工コース
8月度	7日(火)～10日(金)	マクロコース
9月度	5日(水)～7日(金)	5軸加工コース
10月度	2日(火)～5日(金)	基礎コース
11月度	14日(水)～16日(金)	高速・高精度加工コース
12月度	4日(火)～7日(金)	マクロコース

※お申し込みは、各営業所へお願いします。

※予告なく開催日や内容の変更もありますので、お申し込みの際にはご確認ください。



「ハンガー」

ハンガーは、今や100円ショップで買うことができ、また洋服をクリーニングに出すと付いてくるものです。殆どのが中国やアジアで作られているもので、普段特別気にかけることもなく、生活の中に存在している商品です。

このハンガーの専門メーカー中田工芸株式会社が兵庫県豊岡市高野町にあります。同社は昭和21年創業の木製ハンガー専門メーカーです。熟練の職人技で1本1本丁寧に仕上げる確かなクオリティや、美しさは国内の一流ホテルやアパレル業界から絶大な信頼を得ています。斜陽と思われる木製ハンガーで年間7億5000万円を売り上げるトップメーカーです。その経営は多くの新聞・雑誌で取り上げられ、NHK「ルソンの壺」という番組でも紹介されました。昭和30年代、大量生産できるプラスチック製が台頭。そこでファッション業界に活路を見だし、ブランドイメージを上げ“魅せるハンガー”を次々と開発。今や採用するブランドメーカーは1000社以上に上っています。

ファッションのメーカーは自社ブランドの洋服がより素晴らしく見せる為にハンガーにも拘るようになりました。中田工芸では、各ブランドメーカーと綿密な議論を繰り返し、そのブランドに合った木製ハンガーを作っています。例えばスーツでも中田工芸で作られたハンガーではしわも出来ず、スーツに存在感を与えています。現在では、日本のファッション領域の中心である東京・青山にハンガーショールーム「NAKATA HANGER」をオープンしています。更には、結婚式の引き出物として服と幸福をかけ「福をかけるハンガー」など個人向けビジネスも展開しています。

付加価値が付けられないと思っていたハンガーが、服とマッチングして付加価値を生み出す。使えば使うほど湧き出てくる人の智慧の素晴らしさを感じます。

管理本部ゼネラルマネージャー 上村 誠

本号の書き終わり

* 日本工作機械工業会から平成23年11月度の受注状況が発表されました。11月度の工作機械受注額は1,120億円で、3ヵ月連続1千億円を越えました。前月比で10.8%増、前年同月比でも15.8%増と24ヶ月連続増加となりました。内需は377億円で前月比19.0%増と3ヶ月ぶりに増加、主な業種の前月比は全て増加しました。しかし、引き続き円高による国内の設備投資環境は依然として厳

しい状況が続いています。外需は、742億円で前月比7.0%増と2ヵ月ぶりに増加、前年同月比は12.9%増と25ヶ月連続増加となりました。また地域別ではアジアが428億円で、前月比7.0%増と2ヵ月ぶりに増加、タイ洪水被害の復興需要が多くの業種でありアジア全体の受注を押し上げていました。

* 経団連の採用指針となる「倫理憲章」の見直しにより、平成24年度卒業生を対象にした会社説明会などが12月1日以降となりました。以前は

10月1日からなので学生は企業と接触できる期間が短い為に企業を絞り込む必要があります。このことは中小企業にとって優秀な学生と会える機会が増えるものと思っています。

* 金属光造形複合加工機医療フォーラムの設立、またドイツで開催されたEUROMOLDへの初出品と金属光造形複合加工機が大きく動く年となりますので期待ください。

* 本年も有用な情報提供を心がけますので、よろしくお願い致します。